

平成25年度 事業計画及び収支予算について

昨年度は、地域団体・事業者と協働で紀伊半島大水害からの回復のため、さまざまな誘客施策に取り組むとともに、平成25年「伊勢神宮式年遷宮」、平成26年「世界遺産10周年」、平成27年「高野山開創1200年」、「紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会」と連続する催事を活かせるよう、事業を展開して参りました。

近年、観光は、長引く不況、雇用情勢の不安、少子化等、様々な社会的要因による影響を受け、一方では、団体旅行から個人・グループ旅行などへ、観光形態は多様に変化しています。そのような中、社会のトレンドを見据え、私たち観光に携わる者にとっては、従来にも増した臨機な対応が必要となっています。

本県では、観光立県実現のための基本理念と観光振興に関する基本的な事項などを定めた「和歌山県観光立県推進条例」に基づき、観光関係者、行政、そして県民の総参加による観光振興への取り組みを進めています。観光は、旅行業、運輸業や宿泊業及び飲食業などの直接に関連する産業だけでなく、農林水産業や商工業など多くの産業へ幅広く効果を及ぼす総合的な産業であり、その振興は、地域経済の発展と県民生活の向上に寄与することが期待されています。

今年度、観光連盟では、観光の果たす社会的役割を踏まえ、県、市町村、観光事業者が協働して取り組む観光振興計画「和歌山県観光振興実施行動計画＝アクションプログラム2013＝」を県と連携して策定し、「和歌山を売り出す」「和歌山へ招く」「和歌山でもてなす」、さらに、「わかやまりレーキャンペーンで売り出す、招く、もてなす」を施策の柱として策定しました。今年度は伊勢神宮式年遷宮が催行され、伊勢神宮への参詣者を本県へ誘客、また、平成26年には世界遺産登録10周年を迎え、それを契機として、「和み（なごみ）」をテーマにしたわかやまデスティネーションキャンペーンや、高野山開創1200年（平成27年）に向けた具体的な取り組みを推進し、和歌山の魅力発信、誘客に努めて参ります。

「和歌山を売り出す」では、世界遺産地域をフィールドとしたウォークイベントの開催や、熊野古道健康トレッキングの推進、女性向け誘客施策の充実に加え、平成26年の世界遺産登録10周年を見据え、紀伊路、高野七口の新たな魅力の開発に取り組み、誘客を図って参ります。

また、「和歌山へ招く」では、年金旅行、教育旅行などのターゲットを絞った誘客、ウェブによる情報発信、国際チャーター便就航促進によるインバウンドの促進などにより誘客を図って参ります。「和歌山でもてなす」では、引き続き観光関係従事者の接遇向上、施設・料理など旅館・ホテルの商品力向上を支援するアドバイザーの派遣等や、ホスピタリティの向上を推進、和歌山ならではのおもてなしで誘客を図るとともに、外国人観光客が快適に観光できる受入体制の充実強化と、体験型観光の資質向上を目指すこととしています。

これらの施策について、トレンドやマーケットニーズを活かした臨機な対応により、県、市町村、観光事業者と協働し、本県の観光振興を図るとともに、わかやまりレーキャンペーンにおいては、関係団体と連携し、また今後は、和歌山ディスターションキャンペーン推進協議会の中核として、観光施策を展開して参ります。

1 和歌山を売り出す (14,258 千円)

(1) 観光地魅力発信 (13,188 千円)

観光地のPRとして、ロケ誘致や各種イベントでの情報発信を推進し、観光客を誘致する。

- ・「わかやまフィルムコミッション」による地域と連携した映画等のロケ誘致
- ・観光キャンペーンスタッフ「きのくにフレンズ」によるPR活動の実施
- ・観光連盟HPの運営

(2) 「わかやま紀州館」における和歌山県産品宣伝 (1,070 千円)

和歌山県から中小企業団体中央会に対し委託している「わかやま紀州館」での和歌山県産品展示運営の管理及び首都圏における和歌山県産品の調査を行う。

2 和歌山へ招く (138,973 千円)

(1) 戦略的首都圏対策 (44,981 千円)

情報発信の一大拠点である首都圏を対象に、多種多様な手段を講じて多面的に高野熊野をはじめとする和歌山の魅力を発信し、和歌山県観光の認知度を向上させると共に、首都圏をはじめ全国から新たな観光客の誘客を図っていく。

○観光物産PRイベント等の実施

マスコミや旅行エージェント等とタイアップした各種イベントを同時期に集中させた首都圏大規模キャンペーンイベントを実施する。

○マスコミを通じた認知度の向上

世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の主要エリアである高野山・熊野三山や、南紀白浜をはじめとした「和歌山県の魅力」や「首都圏から近い和歌山県」をアピールするとともに、テレビ・雑誌媒体に対し、本県の観光や食などをテーマにした番組や特集記事等の制作・掲載を働きかけ、露出度アップを図る。

○旅行エージェントへの売り込み

首都圏エージェントに対し、特に旅行志向の高い女性層をターゲットに、和歌山ならではの観光や食、体験など魅力ある商品となり得る素材を提案し、現地招致も取り入れながら旅行商品の造成等を働きかけ、和歌山への誘客を促進する。

○わかやま講座

首都圏の自治体、カルチャーセンター、旅行エージェント等とタイアップした和歌山の魅力をアピールできる講座を開催するとともに、講座参加者のデータベースを活用した観光情報の提供により和歌山への旅行需要を喚起する。

(2) 観光センター運営 (25,741 千円)

○わかやま紀州館実施事業

首都圏からの誘客対策、わかやま紀州館広報の展開

旅行エージェント、メディア関係者への対応

○名古屋観光センター実施事業

東海圏からの誘客対策、旅行エージェント・メディア関係者への対応

(3) 国際観光推進 (11,937 千円)

香港、台湾、韓国、中国の東アジア、タイ、シンガポール、マレーシアを含む東南アジア、並びにフランス、イタリアなど欧米豪からの外国人観光客の誘致を推進する。

- ・海外メディアの取材誘致等による海外への情報発信
- ・海外エージェントへのセールス、視察（下見）招請による旅行商品造成支援
- ・若年層の交流、体験や民泊を通じた教育旅行の誘致促進
- ・国際チャーター便、海外クルーズ船の就航支援及び誘致活動の展開

(4) 教育旅行誘致推進 (5,263 千円)

修学旅行来県校の増加を図るための誘致活動を積極的に展開するとともに、必要な受入体制整備を図る。

- ・旅行会社及び学校を対象とした現地視察の支援
- ・修学旅行の受け皿となる地域コーディネート組織の育成

(5) スポーツ合宿誘致 (1,696 千円)

大学生の合宿の方面決定に影響力のある「合宿・ゼミ旅行の宿」（大学生協作成）を活用し、県内宿泊施設等の認知度向上を図る。

- ・「合宿・ゼミ旅行の宿」への広告掲載に対する支援

(6) 観光プロモーション、観光情報誌作成 (49,355 千円)

県内の様々な観光情報を掲載した情報誌を作成し、マスコミ、旅行代理店、輸送機関等のほかエンドユーザーへ広く提供する。また、各種メディアを活用した情報発信、輸送機関とのタイアップなど、効率的・効果的な観光プロモーション活動を展開する。

- ・テレビや新聞、雑誌など各種メディアを活用した情報発信
- ・集客力のある展示会・イベント等への出展を通じた観光PR
- ・輸送機関や旅行会社とタイアップした誘客促進
- ・新しい観光素材を組み入れた旅行商品の販売促進のための下見支援

3 和歌山でもてなす (6,632 千円)

人材の育成 (6,632 千円)

「ほんまもん体験」プログラムの品質向上及び紀州語り部の資質向上を図る。

- ・和歌山大学観光学部との連携（インターンシップ）
- ・体験インストラクターの技術力向上のための現地研修会の実施
- ・紀州語り部の資質の維持・向上のための研修会への支援及び実施

4 コンベンション誘致推進 他 (16,187 千円)

(1) コンベンション誘致推進 (14,395 千円)

全国規模の大会、学会、見本市など(いわゆるコンベンション)を誘致し、宿泊客の確保を通じた観光振興を図る。

- ・ コンベンション主催団体に対する助成金交付
- ・ 観光パンフレットなどのツール提供

(2) 和歌山ファンクラブ運営 (292 千円)

県内外の方々に和歌山を知っていただき、リピーター化を促進する「和歌山ファンクラブ」を運営する。

(3) 社団法人日本観光振興協会、近畿2府5県観光連盟共同 (1,500 千円)

- ・ 社団法人日本観光振興協会への拠出金
- ・ 社団法人日本観光振興協会及び近畿2府5県と共同事業を実施し、広域観光振興を推進

5 熊野古道宿泊施設運営 (8,279 千円)

高野・熊野の世界遺産登録効果を持続させるため、首都圏の団塊世代やウォーカーを主な対象に、誘客力強化に向けて整備をした「熊野古道の宿 霧の郷たかはら」を運営する。